

写

6 消安第 6558 号  
令和 7 年 2 月 7 日

都道府県家畜衛生主務部長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

### 春先に向けた吸血昆虫対策の強化について

昨年 11 月に我が国において初めてランピースキン病（以下「本病」という。）の発生が確認され、これまでに福岡県の 19 農場及び熊本県の 3 農場において発生が確認されています。

現時点で、新規の発生農場は確認されていませんが、一方で、本病を媒介する吸血昆虫が活発となる春先以降に本病が再流行するリスクを最小限とするため、春先に向けた吸血昆虫対策が今の段階で重要となります。また、吸血昆虫のなかでも、個体数や吸血頻度が多いサシバエ対策が特に重要です。

つきましては、特に今講ずべき対策として重要な下記の点について生産者及び関係団体への周知及び指導方お願いします。

### 記

#### 1 卵、幼虫及びさなぎ対策

サシバエはさなぎの状態越冬することが知られており、春先以降の成虫の発生を減らすためには冬のうちの対策が重要です。このため、サシバエのさなぎが存在する堆肥については、適切な頻度での切り返し及び水分管理によって発酵熱を高め、殺虫を行うことが推奨されます。

また、活動を始めた成虫が生んだ卵や幼虫の駆除を図る目的で、牛舎壁の隅、牛舎内の溝、ウォーターカップ下、通路のゴムマットの下やその隙間等の清掃や、幼虫が多く生息する傾向のある牛舎内の成牛の踏まない場所（特に牛舎隅等）や子牛の牛床全体への昆虫成長制御剤（IGR 剤）の散布が有効です。

#### 2 成虫対策

サシバエは春先の比較的涼しい時期に成虫となって活動が活発になることから、成虫の活動開始時期を逃さず殺虫剤の散布を行うことが推奨されます。一匹の成虫は生涯で約 600 個の卵を産む能力があることが知られており、成虫を防除し、次世代の成虫の発生を防ぐことが重要です。なお、連続的に同

一系統の薬剤を使用することはサシバエによる薬剤抵抗性の獲得を助長しかねないことから、作用機序の異なる薬剤をローテーションで使用する事が推奨されますので留意ください。

また、牛舎に成虫を近づけない観点から、網目が6ミリメートルの薬剤含浸防虫ネット及びハエ取り紙の牛舎への設置、サシバエの休息場所となる牛舎周辺の草刈り等が有効です。

さらに、動物衛生課長通知（6消安第5231号 令和6年12月13日）によって通知した車両等を介した伝播の防止対策（農場への入出場時における車両（タイヤ回りだけでなく車体も含む）の洗浄・消毒のほか、車体や車内への殺虫剤の散布等）についても引き続きご指導願います。

また、サシバエ対策の具体的なポイントをまとめたリーフレットを公表しておりますので、ご参照・ご活用ください。

(<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/attach/pdf/lcd-93.pdf>)